



促成トマトの天敵昆虫の利用を 主体としたIPMモデル

最近、消費者の間では安全・安心な農産物に対する関心がより一層高まっています。このことから、化学農薬を低減する害虫防除技術の一つとして、天敵昆虫の利用技術を開発しました。しかし、天敵昆虫は特定の害虫にしか効果がないため、その他の害虫が発生した場合には化学農薬を使わざるを得ません。この場合、化学農薬を害虫の発生初期に使用すれば、効果が高くその後の使用量も低減できます。また、天敵昆虫に影響の少ない選択性殺虫剤の使用は天敵昆虫の効果を低下させません。

そこで、促成トマトにおける天敵昆虫と選択性殺虫剤を併用したIPM（総合的害虫管理）モデルを策定しました。

促成トマトのIPM(総合的害虫管理)モデル

	定植			収穫				
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5~7月
コナジラミ類	オンシツツヤコバチ			サバクツヤコバチ				
	←			→				
				チェス水和剤等				
アブラムシ類	←			→				
	チェス水和剤等			チェス水和剤等				
ハダニ類 トマトサビダニ	←			→				
	コロマイト乳剤等			コロマイト乳剤等				
ハモグリバエ類	←			→				
	トリガード液剤 マッチ乳剤等			トリガード液剤 マッチ乳剤等				
				イサエアヒメコバチ				
ハスモンヨトウ オオタバコガ	BT剤							
	マッチ乳剤等							

* 表中は色別に以下のようなグループに分類される。

天敵昆虫
微生物農薬
天敵には影響の少ない殺虫剤

留意点

- ・その他、物理的防除として、害虫の侵入を防止するため、施設の開口部に防虫ネットを展張したり、外張りに紫外線除去フィルムを利用する。

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業研究所 病害虫担当
 TEL (0883) 24-2217 FAX (0883) 24-2305
<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>